

女性の肥満度と姿勢が印象に与える影響の評価

Evaluation of the Influence of
Female Slimming Degree and Posture on Impression

小野瀬 立眞 (Ryuma Onose) 指導：宮崎 正己

1. 研究の背景

近年、女性の過痩身が問題となっている。痩せた体型が魅力的だとされる社会圧力によって痩身願望を持つ女性が増加し、それにともない摂食障害などを患う女性が増加した。痩身状態はさまざまな悪影響を健康に与えるとされており、実際にこれらを要因とする死亡も報告されている。この過痩身問題の解決には、痩せた体型が魅力的だとされる意識の改善が必要であり[1]、肥満度とは別の新たな体型の魅力の提案が必要である。この問題に対し菅原らは、脱衣女性の体型の印象に姿勢が影響していることを明らかにし、女性の体型の魅力に対する新たな変数として姿勢を提案した[2]。しかし、この研究では衣服を着衣した状態の体型の印象については検討されていない。

2. 目的

本研究の目的は、衣服着用時における女性の体型の印象に、姿勢と肥満度が与える影響を明らかにすることである。

3. 実験方法

20代～60代の女性166名の被験者に対し、女性の体型に関する印象評価アンケート調査をおこなった。試料の変数として肥満度と姿勢の2つを設定した。肥満度は、BMIを5段階に、姿勢は直立、後傾、前傾、直立腰部前傾、脱力の5タイプを設定した。年代間のサンプル数をそろえた70名の回答結果の平均点に対して質問項目を変数とした主成分分析を行い試料の特徴の抽出を試みた(PCA1)。また、好ましさの項目のデータに対して評価者を変数とした先行回帰型の主成分分析を行い評価者の好ましさの特徴の抽出を試みた(PCA2)。

4. 結果と考察

PCA1では第一主成分を総合的な魅力、第二主成分を肥満度とした。いずれのBMIにおいても総合的な魅力で直立が最高得点であり、脱力が最低得点であった。PCA2では第一、第二主成分得点においてPCA1と類似の各試料の得点が得られた。また、各評価者の主成分負荷量の値から、総

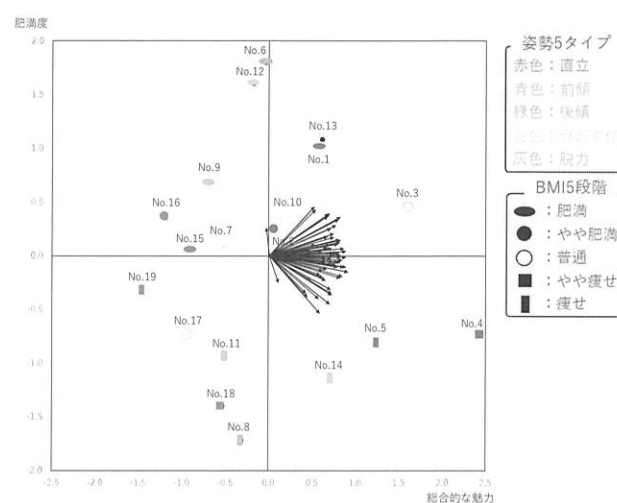


図1. 主成分得点と固有ベクトルの散布図

合的な魅力に関していずれの評価者も直立を好み、脱力を好まないことがわかった。肥満度に関して評価者間で好ましさに差があることがわかった(図1)。

姿勢が着衣状態の女性の体型に与える影響が大きいことがPCA1、PCA2から明らかにされた。また、いずれの評価者においても好まれる姿勢は共通したものであるが、肥満度においては評価者間で好みに個人差があることが明らかにされた。

5. 結論

本研究では着衣状態における女性の体型の魅力を考える上で姿勢が重要な要因の一つであることが示唆された。この結果が女性の体型の魅力と健康に対する意識を変えるきっかけとなることに期待したい。

参考文献

- [1] 田中有可里：摂食障害に対する痩せ志向文化の影響，カウンセリング研究，Vol. 34, p. 69-81, 2001.
- [2] 菅原徹，山口遊子，宮崎正己，岸本泰蔵，上家倫子，黒野寛馬：女性の体型と姿勢の関係が美的印象に及ぼす影響，日本感性工学会論文誌，Vol. 17, No. 4, p. 499-505, 2018.